

心臓弁膜症と末梢動脈硬化疾患の関連に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2017年8月31日～2020年3月31日

〔研究課題〕 心臓弁膜症と末梢閉塞性動脈硬化疾患の関連における後ろ向き研究

〔研究目的〕

高齢化社会の到来により心臓弁膜症、特に大動脈弁・僧帽弁疾患が増えています。近年、大動脈弁疾患の原因として、加齢変性によるとされていた大動脈弁硬化・変性に加え、動脈硬化様の要素が関与していることが分かってきました。しかし、大動脈弁疾患と末梢閉塞性動脈硬化疾患（頸動脈硬化、閉塞性動脈硬化症など）の関連は、十分に検討されていません。さらに、その他の弁膜症疾患においても末梢閉塞性動脈硬化疾患との関連は明らかではありません。本研究の目的は、重症心臓弁膜症患者における、末梢閉塞性動脈硬化疾患の予測因子を後ろ向きに検証することです。

〔研究意義〕

各心臓弁膜症に合併した末梢閉塞性動脈硬化疾患の合併の現状を明らかにし、その臨床的意義を見出すことにより、心臓弁膜症治療に対する治療方法の選択に影響を及ぼしうるかを判断することができると期待されます。

〔対象・研究方法〕

当院において2009年5月から2019年3月まで経胸壁心エコー検査を施行し、重症弁膜症と診断された患者さんの中で、経胸壁心エコー検査施行前後6か月以内に頸動脈エコー検査および足関節・上腕血圧比（ABI）を施行した方を対象とします。各重症弁膜症における末梢閉塞性動脈硬化疾患の有病率や、心エコー所見と動脈硬化リスクファクター等を組み合わせて、末梢閉塞性動脈硬化疾患の予測因子や合併の意義を後ろ向きに検証します。既存の検査データを用いるので、新たな検査・診察は必要としません。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部

本試験は、後ろ向きの疫学調査であり、患者さんへの経済負担や支払いは生じません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 帝京大学医学部内科学講座 准教授 横山直之

研究分担者: 帝京大学医学部内科学講座 大学院生 高橋慎司

住所: 〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211 (代表) [内線 30415]